

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年2月14日 (2013.2.14)

【公表番号】特表2012-512176(P2012-512176A)

【公表日】平成24年5月31日 (2012.5.31)

【年通号数】公開・登録公報2012-021

【出願番号】特願2011-540971(P2011-540971)

【国際特許分類】

A 6 1 K 36/48 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/06 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/22 (2006.01)

A 6 1 K 31/7016 (2006.01)

A 6 1 K 31/7004 (2006.01)

A 6 1 K 31/7012 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 35/78 J

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 7/06

A 6 1 P 43/00 1 0 5

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 37/24

A 6 1 K 31/7016

A 6 1 K 31/7004

A 6 1 K 31/7012

【手続補正書】

【提出日】平成24年12月14日 (2012.12.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

キバナオウギ ( *Astragalus membranaceus* ) の抽出物を含む組成物であって、その抽出物が、

4 . 0 : 1 から 5 . 0 : 1 の範囲のアラビノース : ガラクトース比 ;

約 5 % から約 10 % のラムノース ;

約 15 % から約 20 % のガラクトース ;

約 10 % から約 20 % のガラクトン酸 ;

2 重量 % 以下のタンパク質 ;

約 10 % から約 15 % のグルコース ; を含み、

かつ、その抽出物が、キバナオウギから粗抽出物を単離することと、粗抽出物を酸で穏

やかに処理することを含む第 1 のプロセスを用いて調製され、その穏やかに処理することが、約 0.05 M から約 0.5 M の濃度で、約 15 から 25 の温度で、約 1 時間から約 24 時間の間、酸を粗抽出物に適用することを含み、酸を適用する温度及び時間が、前記のアラビノース：ガラクトース比、ガラクトース含有量、グルコース含有量、及び高収率を得るように選択され、かつ、

その抽出物の収率が、3.5 : 1 未満のアラビノース：ガラクトース比、20 % から 35 % のガラクトース、及び約 10 % 未満のグルコースを得るように選択される温度及び時間で、酸を粗抽出物に適用することを含む第 2 のプロセスを用いて生成されるキバナオウギの抽出物の収率よりも実質的に高い

ことを特徴とする組成物。

【請求項 2】

キバナオウギが、マメ科ナイモウオウギ (*A. membranaceus* Bge. var. *mongholicus* (Bge.) Hsiao) またはマメ科キバナオウギ (*A. membranaceus* (Fisch.) Bge) である

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

キバナオウギが、中華人民共和国の内モンゴル自治区または山西省で生育したものである

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

根が、約 2 年もののキバナオウギ植物に由来するものである

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

少なくとも 100 キロダルトンの重量平均分子量を有する

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

少なくとも 80 重量 % の炭水化物を有する

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

酸が、トリクロロ酢酸または塩酸である

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

水溶液中、約 4.5 から約 6.5 の pH を有する

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

造血を刺激する薬剤を含む

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 10】

顆粒球コロニー刺激因子、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子、エリスロポエチン及び赤血球生成促進因子、トロンボポエチン、インターロイキン - 3、及びそれらの誘導体からなる群から選択される薬剤を含む

請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 11】

治療的有効量の請求項 1 に記載の組成物と水性注射用賦形剤とを含む

ことを特徴とする水性注射用製剤。

【請求項 12】

請求項 1 に記載の抽出物を調製する方法であって、

粗抽出物をキバナオウギから単離することと、粗抽出物を酸で穏やかに処理することとを含み；

穏やかに処理することが、約 0.05 M から約 0.5 M の濃度で、約 15 から 25

の温度で、約 1 時間から約 2 4 時間の間、酸を粗抽出物に適用することを含み、酸を適用する温度及び時間が、4 . 0 : 1 から 5 . 0 : 1 の範囲のアラビノース：ガラクトース比；約 5 % から約 1 0 % のラムノース；約 1 5 % から約 2 0 % のガラクトース；約 1 0 % から約 2 0 % のガラクトン酸；約 1 0 % から約 1 5 % のグルコース；及び2 重量 % 以下のタンパク質を得るように選択される

ことを特徴とする方法。

【請求項 1 3】

キバナオウギの高収率抽出物を含む組成物であって、その抽出物が、  
約 3 . 5 : 1 を超えるアラビノース：ガラクトース比；  
約 5 % から約 1 0 % のラムノース；  
約 1 5 % から約 2 0 % のガラクトース；  
約 1 0 % から約 2 0 % のガラクトン酸；  
約 1 0 % から約 1 5 % のグルコース；を含む  
ことを特徴とする組成物。

【請求項 1 4】

組成物が、治療的有効量で医薬品を投与することにより哺乳動物における特発性血小板減少性紫斑病を治療する医薬品の製造に用いられる

請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 5】

組成物が、治療的有効量で医薬品を投与することにより哺乳動物における特発性血小板減少性紫斑病を治療する医薬品の製造に用いられる

請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 6】

キバナオウギの高分子量抽出物を含む組成物であって、  
その抽出物が、  
約 2 . 0 : 1 超から約 4 . 0 : 1 超のアラビノース：ガラクトース比；  
約 5 % から約 1 5 % のアラビノース；  
約 2 % から約 4 . 0 % のラムノース；  
約 8 % から約 2 5 % のガラクトース；  
約 5 % から約 2 5 % のグルコース；を含み、

組成物が、治療的有効量で前記医薬品を投与することにより、哺乳動物における特発性血小板減少性紫斑病を治療するための医薬品の製造に用いられる

ことを特徴とする組成物。